

この原稿が附属桃山中学校同窓会会員の皆さまに届くころは、桜の開花の便りがあちこちで聞かれるようになってきているのではないかと思います。平素は同窓会の活動にご支援、ご協力賜り厚く御礼を申し上げます。2022年8月の評議員会で承認を頂き、水谷前会長より会長役を引き継ぎ、現在2年目に入っています。通常、総会と親睦会である「つゆ草の集い」は3年ごとに開催されてきましたが、16回の「つゆ草の集い」は前回から4年の間隔が空きました。会員から「次回は2年後にしたらどうか」という提案もあり、今年の6月16日(日)に開催することにしました。このように「つゆ草の集い」を楽しむにされている方が居られるのは心強いばかりです。従来、同窓会の大きな行事は総会と「つゆ草の集い」でしたが、ここ数年は中学校の文化祭にて「昔の校舎」や「修学旅行」、「クラブ活動」などをボスターで紹介したり、中学校の総合的な学習の時間「生き方探究」においては同窓会会員が講演や



田村 直樹

会長挨拶



第 20 号
京都教育大学
附属桃山中学校
同窓会会報
発行人 会長 田村直樹
京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
E-mail:
info@fuzokudosokai.com

交流を通して協力するなどを行ってききました。今後も中学校との連携をより深められるようにしていきたいと思えます。

また、1期生の方々は卒寿を迎えられるご年齢となられ、同窓会として後世に残せる歴史を本格的に記録保存する必要がある時期にきています。これに関しては、関連資料の蓄積を始めています。さらに恩師に「近況や当時の思い出」を語って頂きホームページに掲載するなどの企画も進んでいます。

これ以外にも、近畿地区に居られない方々にとっては「つゆ草の集い」は参加が困難であること、若手が主体となって活躍できる場が少ないなど、今後検討していかなければならないことが数多くあります。これらに関しては、同窓会が置かれる環境を鑑みながら進めていきたいと思っています。

末尾になりましたが、同窓生の皆様、母校、附属桃山中学校とお世話になりました新旧教職員の皆様、そして同窓会の今後一層の発展を祈念いたしました。ご挨拶とさせていただきます。



第17回 つゆ草の集い

京都教育大学附属桃山中学校 同窓会総会

恩師の方々を囲んで

通常3年ごとに行われている「つゆ草の集い」は前回2022年に4年越しで行われました。今回は従来の間隔に戻すべく2024年6月16日(日)に実施することにしています。

特に「恩師」や「日頃会えない方々」とのふれあいを心がけたいと思い、可能な限り恩師に参加して頂くようにするとともに、ネットを使って遠隔にいる人ともコミュニケーションを取れるようにしたいと思っています。(出席していただける恩師の名前は同窓会ホームページに掲載する予定です。)

「つゆ草の集い」にご招待したい恩師がおられれば、恩師の氏名、連絡先(メールアドレスや電話番号、住所)および紹介して頂ける方の名前、連絡先、期を同窓会メールアドレス info@fuzokudosokai.com にお送りください。可能な限り対応します。(期限:4月30日)

また、附桃中同窓会10期生で、声楽家及び合唱指揮者として活動されています山田晏子様の指揮のもと、女声合唱団「コール・ハレルヤ」の演奏も予定されています。

山田様は京都市立音楽短期大学(現市立芸術大学)声楽科を卒業され、今日までリサイタル、ジョイントリサイタルをはじめ、数多くのコンサートに出演され、長年に亘り音楽活動を通して音楽文化発展と社会福祉面に意欲的に取り組んでおられます。皆様も是非ともこの機会に音楽を楽しんで頂ければと思います。

今後も同窓会の活動の情報発信を行うとともに、その情報を入手しやすくするため、メールアドレスを登録すれば情報が配信されるようにしました。この会報「つゆ草20号」に同封されているはがきに書かれているQRコードから簡単に入力できるようになっています。是非ともこの機会に登録していただければと思います。

皆さまのご健勝を心から祈念しております。

会長 田村直樹

■とき

2024年6月16日(日)

10:45 受付開始

11:15 総会開始

11:45 記念撮影

12:00 コンサート

12:30 「つゆ草の集い」開会

14:30 閉会予定

■ところ

ホテルグランヴィア京都

〒600-8216 京都駅ビル

TEL 075-344-8888

■会費

社会人 10,000円

(1期~12期 5,000円)

大学生 3,000円

高校生 1,000円

※出欠のお返事は同封葉書にて5月11日までにお願いします。
(注)出席のご返事を頂きながら、当日ご欠席された際には、会費をご負担いただくこととなりますので、欠席変更の場合、必ず開催5日前の6月11日(火)までにご連絡を頂ければ幸いです。

皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

中学校から

同窓会の皆様へ

副校長 秋山 雅文

令和6年度から中高一貫化へ

校庭の銀杏が見事に色づいていたかと思えば雪が降り、梅や桃が咲こうとする・・・季節が驚くような速さで流れていきます。気づけば卒業からずいぶんと年月が過ぎておられるという皆様も多いのではないのでしょうか。同窓会の皆様には平素より本校教育活動にご協力いただきありがとうございます。

本校では、令和6年度入学生より附属高校との中高一貫化が始まります。近年、少子化と競合校の増加によって厳しい状況にある中、一貫化での受験生大幅減少が予測されています。

令和5年3月の時点で、学習塾では令和6年度入学生入試の定員割れが多くなると危惧感を持って



迎えました。令和5年度は「令和6年度入学生受験生の確保」を最優先目標として、学校の生き残りを賭けた取り組みを進めてきました。

その中心と位置づけたのが、「生き方探究」です。本校では従来からM・E・Tと呼ぶ探究学習に取り組みを進めてきました。これを再編し、探究の進め方を学び実践する「課題探究」と、自己を見つめ将来の姿を描く「生き方探究」とで総合的な学習の時間を構成しました。「生き方探究」では、

小学生のころには無邪気に語っていたのに中学生になると途端に封印してしまうことが多い「夢」を見つけて再発見したりして、そこにたどり着くまでの道をリアルに描こうという取り組みをおこなっています。「生き方探究」は大きく3つのステージに分かれます。最初に自己理解を深め、仲間との交流を通して自分は何ができるのか何がしたいのか何を望んでいるのかと自己を見つめます。次に夢を描き実現している方から、夢を描いたきっかけ、たどり着くまでの道のり、現在の生活や中学生に期待することなどについて講演をしてもらいます。第1回は国会議員の泉健太氏による講演会をおこなしました。この中で生徒代表が論戦を挑む「論戦体験」を実施しました。第2回はシンガーソングライターの坂本櫻氏による講演会・ミニライブをおこないました。この中では、音楽部との共演やミュージックビデオ撮影体験をおこない、体験の予定でしたがビデオの出来が良かったため実際の楽曲のミュージックビデオに採用されました。第3回はNHKニュース京いちにちにメインキャスターを務めるアナウンサーの童田理史氏による講演会をおこないました。この日はミニアナウンスコンテストをおこない、各学年代表が実際のニュース原稿読み挑戦して講評をいただきました。3つめのステージは、実際に仕事についている方々に来校してもらい、少人数グループで話やワークショップを実施していただきました。この講師をはじめ同窓会副会長長の竹中徹男様はじめ同窓会の皆様にご協力をいただきました。また、

講師の方を紹介していただくなど、多くの皆様のお力を借りて約20コースを2度にわたって開催することができました。

一方、生徒たちも生徒会が掲げた「輝き方改革」を目標に自主的な活動を進めました。あらゆる行事でボランティア参加を呼びかけ、自主的に参加したメンバーで企画・運営をおこないました。学校行事では体育大会を縦割り色別対抗式にして、応援合戦を取り入れられました。ここでは生徒会の作詞作曲による桃中応援歌が披露されました。文化祭でも新しい取り組みを進め、完全に生徒の手による運営で4年ぶりの対面式で実施しました。また、学校公開日を4月・7月・10月に実施し、これも生徒主体で運営しました。丹波橋駅から案内や受け付け、学校説明、体験授業などを企画し、たいへん好評を得ました。

広報にも注力しました。学校公開

日の広告を作成し、京都市や山城地域の小学校・学習塾に送付して掲示を依頼しました。また、京阪丹波橋駅に広告看板を掲出しました。

1月に実施した令和6年度入学生入試には、約200人の出願があり例年以上の競争率となりました。どの取り組みが功を奏したのかは分かりませんが、ひと安心したところだと思います。とはいえ、厳しい状況に変わりはなく、今後も気を緩めることなく学校改革を進めていきます。同窓会の皆様には、今後ともご協力よろしくお願いたします。

★お知らせ 「新しく制服が変わりました」

令和5年度から制服が新しく生まれ変わりました。50余年ぶりの変更となります。新入生の方々がごの制服に身を包み、充実した新しい中学校生活を満喫されることを切に願っています。



附桃中文化祭

理事 田中 曜次 (29期)

ポスター展示のご報告 (2023年10月26、27日)

10月26、27日に行われた中学校の文化祭において、同窓会として「部活動の思い出」をテーマにポスター展示という形で参加しました。理事や評議員の方を通じて同窓会員の方々に写真や思い出を提供していただき、有り難うございました。心から感謝致します。

担当として取り組みが遅くなったことを最初にお詫び申し上げます。もう少し計画的に取り組みを進めて



ポスターを見る生徒

おけば、もっと多くの方にご協力いただけたと反省しております。私たちの学年も還暦を越え、現役を退きつつあります。また、名簿などの管理が厳しくなり、なかなか連絡を広く伝えることがしにくくなっております。昨今はSNSなども利用されていますが、まだまだかつての「同窓会名簿」のように利用できないようです。このような中で、会長はじめ役員の方が中心になり、連絡を広めてくださいました。本当にありがとうございます。提供いただいた原稿には、「サッカー部が半年以上休眠状態になった頃があった」、「サッカー部のユニフォームの変遷」、「水泳部は中学校にプールができる前は小学校のプールで練習していた」、「音楽劇の写真」など当時を振り返る記憶や貴重な記録がありました。

創立当時の思い出や同好会の写真なども掲示することができ、現在の生徒の皆さんにとっては新鮮で、昔の苦労や楽しみを知る良い機会にしていただけだと思います。また、「野球部」や「郷土研究部」などかつて存在した部活動や「音楽劇」や「フィールドワーク」など活発な活動なども紹介することができました。

昨今は全国的に「教員の長時間労働」、「いじめ」などの問題の温床として批判の対象となることが多い部活動ですが、かつての附桃中のような「自主的」で「和やか」な活動が広まればと考えております。

今年は保護者の方の入校が可能となり、生徒の皆さんも作品作りや舞台発表に、より一層気持が込められていたようです。また、卒業生も1日だけででしたが見学可能となりました。生徒と卒業生の直接の交流はできませんでしたが、今年度以降もより

楽しめる企画を考えて継続させていきたいと思えます。

お手元に「中学校の思い出」「写真などの記録」がございましたら、卒業年あるいは期と氏名、送付先のメールアドレスを同窓会メールアドレス (info@fuzokudokosakai.com) に送付してください。今後の同窓会の活動の参考に生かしたいと思います。これからも同窓会の活動にご協力を頂くようよろしくお願い致します。

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

同窓会寄稿

「私が取り組んできたこと」
—音楽と友は人生の宝—



山田 晏子 (10期)

幼い頃から歌が大好きだった私は、学校から帰れば近くの山の中を歌いながら一人で歩き回りました。私が歩き回った故郷の素晴らしい自然は、今ではすべて同志社田辺校地となりました。

私には進む道は歌しか頭になく、中学校へ入ったら奥谷先生の熱心なご指導の中で、自然な流れで高校から音楽の道に進みました。

卒業後、結婚をして毎日自宅でピアノを教えながら、当時の田辺町の音楽活動も何もない淋しさの中で、初めて立ち上げた女声合唱団も今年で48年目を迎えました。その後次々と合唱団が生まれ、田辺町も京田辺市として文化的にも素晴らしい発展し、音楽の溢れる町になりました。

少年少女合唱団も35年間指導し、

今も3つの女声合唱団の指導を続ける中で、多くの団員たちとの素晴らしい出会いがあり、温かさや優しさに支えられて今日まで歩いて参りました。

また附属の同級生、同窓生の皆様をはじめ、周りの多くの素晴らしい友達との絆に恵まれた自分の幸せな人生に感謝をする毎日です。

第2の人生をどう過ごすか!!



田中 徹也 (22期)

私は、22才から42年間、大阪ガスで勤務し、今では死語になっていますが、滅私奉公して来ました。結構、上司や同僚に恵まれた充実した会社生活でしたが、今後の「第2の人生」を考えた時、生活拠点が京都なので、京都で何かできないかと考えていました。

そんな時に、大阪ガスの京都在住の先輩から、「京都SKY観光ガイド協会(シニア対象)」の話を知りました。特に、私が住んでいる泉涌寺をはじめ、東山区には、清水寺・八坂神社・三十三間堂・建仁寺・東福寺等々観光名所には事欠きません。

昨年、ついに意を決して応募し、5月からの研修期間を経て、10月から本格的に勤務し、約1年が経過しました。

勤務前は、中学生の修学旅行が中心業務と思っていましたが、京都市内の寺社仏閣での勤務が60%ほど有り、修学旅行の他、一般ガイドや山間ガイドやウォーキングツアーなど各種のガイドが有ります。

修学旅行を始め、勤務前には、下

見や説明内容の勉強・暗記が必要で、75才の定年まで、ボケ防止と健康維持には、最適です。また、修学旅行生を含むお客様とは、一期一会の出会いで、お客様からの感謝のお言葉には、疲れが吹っ飛びます。

会社生活定年時には、「第2の人生はスローテンポ」と考えていましたが、実は、ガイドの他にも東山区のシニアや学区の自治会の世話もしており、現役の時以上に忙しく動き回っています。

カイハツとわたし



田原 良祐 (36期)

機械メーカーに就職し、機械設計者として開発業務に従事した。その後、年齢とともに役割は変わったが、一貫して技術開発に関わってきた。

20代はひたすら設計に没頭し、図面を描くだけでなく製造、運用、保守を理解することで、より良い開発を行うための知識を積み上げた。

30代では自身の設計業務に加え、他のメンバーを巻き込みながら開発プロジェクトをうまく進めることに心血を注いだ。

40代では開発の競争力を高めるために、人材づくり、組織づくり、仕組みづくりの現在にあり、仕組みを進め、大きな価値を生むための開発戦略の立案や開発スキームの構築を自らのミッションとしている。

製造業が人気低迷する中、研究開発、開発設計は比較的学生に人気の高い職種である。ものづくりの楽しさに加え、社会システムを変革する

可能性もあり、やりがいを感じることもできる。ただし苦勞もつきもので新たなテクノロジーを追いかけ続けねばならぬ疲れや苦勞して成し遂げたことがいとも簡単に陳腐化してしまう虚しさがある。

そんな時、心のバランスを保つために旧友と語ることが役立つ。恩師と会って近況を話すのも、先輩と会って小言を言われるのめかけがえのない時間だ。今は、本寄稿を薦めてくれた先輩と美味しい酒を飲むのを楽しみにしている。

近況報告 —働き方改革に思うこと—



奥山 智緒(旧姓柴田) (37期)

附桃中を卒業してもうすぐ40年、中学校に通っていた当時の自分の親や多くの恩師の先生方よりも年上となっていることに驚く。医師になつて春で30年が経過し、職場には、自分の子供と世代の近い職員が働いている。気分だけはまだまだ若いつもりでも、彼らから見れば『オバサン』なんだろうな、と、PCの文字を見るときにシニアグラスをかけながら思わざるを得ない。

少子高齢化が進み、労働力不足を補うために労働者の柔軟な働き方を可能にするための働き方改革に対する取り組みが、あちこちで実現化され始めてきた。いつの時代の諸先輩方も同様の経験をされてきたのだと思うが、『変わってきた時代の流れ』についていかにないと思えない。仕事をはじめたころは、勤務時間の概念もなく夜中まで職場にいるのが

普通だった。今から思えば自分でできることなど限られており、無駄な時間も多かっただろうが、先輩よりも早く帰るのは気がひけた。数年の経験を経て妊娠、出産を経て子育てを始める、当時の職場には妊婦のいる状況を嫌った人がおらず特別扱いをしてくれ、夫と自分自身の両親や近所に住む叔母のフル動員のサポートにより、『文句を言われない働きぶり』を維持しようと思わなかったように思う。今から思うとあり得ないことで、私が無理に頑張ってしまったために、後輩達にとつて気の毒な前例となってしまうことを反省している。

多くの方の助けによりおかげで子供たちは立派に成長してくれたが、子育ての手が楽になると今度は助けにくれた親世代の介護が順に始まった。高齢者介護は、しんどくても成長が見られる楽しみがあり、少しずつ楽になる育児とは全く逆の問題をはらんでいる。叔母、叔父、父、義母が順に亡くなるまでの介護はそれぞれが全く異なった状況であったが、一つ一つが勉強であった。職場の看護師さんからはこちらの腰を痛めなべッド移乗の方法を学び、ケアマネージャーさんからは毎日訪問介護、訪問看護師さんには毎日頭の下がる思いの連続であった。

生産年齢層の人口が減りつつある今日、皆『忙しい』毎日だと思いが、漢字の意味のごとく『心を亡くす』毎日健康ではない。心それぞれ環境はや事情が異なる中で、他の人と比べることなく、自分のために自分に無理のない働き方を推進することで、労働力を減らさないようにする、という狙いはまさに理想的といえよう。

しかしながら、実際には、自分で働き方を調整できないほどの仕事や責任を抱える世代にとっては、休暇取得が翌日からの仕事に影響し、あまりありがたくない制度にも感じる毎日(を過ごしている)。同窓会には様々の世代の会員がおられるが、働き方改革の時代から社会に出る人たちが中心となっているのであろうか。

「人生って何？」



植田 仁美 (旧姓福井) (37期)

37期卒業生の植田(旧姓福井)仁美です。先日「人生って何？」と聞かれたら、何と答えるかなあ、を考

た。今年も、新しい体験はもちろん、懐かしい人・場所との再会が出来る

『旅情や郷愁、様々な感情が交錯する国際空港』



龍村 大 (37期)

10年前に移り住んだタイ王国バンコクを拠点に、出張や家族旅行で日

世界の中の空港でも、異なる人種、性別そして旅の目的をもった旅行者

飛行機を利用しない者にとっても、出発ゲートは心温まる抱擁や涙

自分自身が出張で飛び立つとき、英国の大学院で学ぶ長男がバンコク

今、昭和を振り返って



稲葉 謙次 (37期)

我々の世代は、昭和、平成、令和と三つの年号を経て、半世紀以上も

勉強に取り組み、とても辛かったことがあったのも確かである。しかし

「根拠に基づく努力を重ねれば」というところである。日本人は元来忍耐

同期会便り

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

第10期の同窓会

「いちまる会」開催



第10期卒の同期会(いちまる会)を2023年11月26日(日)にリーガ

2時にお開きとなり希望者は近くの紅葉の東寺を散策し国宝の五重の

みしな会 (七期生同窓会)

秋の会合

柏村和可子 (10期)



みしな会(第7期生)秋の合会は2023年11月15日(火)京都市役所傍のフォーチュンテラス京都で12時から開催。計19名が参加。兎のブローチを着けた女性、そう今年も兎の7回目の卯年だ。我々男は平均寿命81歳を超え平均余命7年、女性は87歳の平均寿命以下で余命9年。これらを考えれば男9人、女10名の出席は上出来である。ドタキャンは帯状疱疹で男1名のみ。最遠方は横浜市次いで大阪狭山、神戸など。群馬県からは癌闘病中の者1名から挨拶が寄せられた。この会合中坊敬君が常任幹事を引き受けてくれているが大津市在住なので京都在住の溝淵文直君がサポート、春秋年2回も開催している。

一番元氣そうなのは神戸から、「城を巡る会」に常時出席し全国を回っている男。また脳卒中で倒れ救急車で運ばれたが脳外科の先生がたまたまいて手術成功。ダンス、卓球、観鳥、魚釣りなど現在も多方面で活躍中、これは大阪狭山から毎回出席、人生は「運」だと言う。乳がん手術してもうすぐ無罪放免になる女性、前立腺癌を克服、肝臓癌闘病中の者など重病経験者もいるが、「場所どこか判らんから」と会場への迎えを頼む者、孫に病院に連れられ認知症と言われた者など流石に84歳高齢年齢層である。しかし、つい先日免許更新し

て毎春秋八ヶ岳の別荘へ車で往復している者、母屋が重文で修理のための合間に車椅子で参加した女性、「有名観光地で商店街の代表でよく名前が出てくる人、同じ苗字やけど親戚かな」「うちや、3代続いている」と女将さん業が板についている女性など、皆一所懸命それなりに生きており、参加者は意外に若い。我々殆ど皆高校以上に進学、有難いことである。(当時大宇進学率15%程)

「今」を大事に生き抜き、また来春会おうと14時半頃散会。このうち14名(男3名、女9名全員)は御所まで散策、晩秋の紅葉を楽しんだという。この年柄、元気で集まれたのは喜ばしく、有難いことだ。楽しんで合会だった! 感謝!

留岡 寛

第25期同期会の報告
(令和5年10月29日開催)



去る10月29日(日)我が第25期の同窓会が「都ホテル京都八条」で開催されました。コロナの影響で開催は6年ぶりとなりました。今回は附属桃山小学校も併せての開催となり

ましたが、依然として残るコロナの影響や急に蔓延したインフルエンザもあり、56名と25期の同窓会としては小規模なものとなりました。それでも卒寿を迎えられた藤林先生と、お元氣な袖岡先生の両恩師にご来臨いただけましたこと、またほ卒業以来というメンバーも何人も出席で、ひと時ではありましたが皆で短いタイムスリップを楽しむことができました。次回の再会を誓い、盛会のうちに閉会しました。

幹事団:徳田 裕之、中谷 耕二、星野(川端) 千晶、森山(井上) 佳子、常田 順介

第21期(昭和44年卒) 同窓会開催



第21期(昭和44年卒業)の私たちも古希と言われる年齢に達しました。令和5年9月17日(日)、4年前卒業50周年を記念して集まってきました。久々の同窓会をウエスティン都ホテル京都で開催しました。「あれ誰?」入口で一瞬キョトンとした顔もありましたが、すぐに昔の姿を思い出し、懐かしい話に花を咲かせ、楽しい時間を過ごしました。

瓦谷 泰浩(21期)

第6期(昭和29年卒) 最後の「十六夜会」開催



令和5年4月20日、最後の「十六夜会」に出席しました。会場の「がんこ高瀬川」は、高瀬川(一之入船から木屋町を経て伏見に至る物流用運河)を開發した江戸期の豪商・角倉了以の別邸だった、と聞きました。

参加者は25、6名、前回以降亡くなった学友は4名(最終確認を失念したので、名前は記しません)。席上回覧された返信を拝見すると、ご本人やご家族の健康状況等の理由で、出席を断念せざるを得なかった方々も相当数おられたようで、時の流れの速さ・厳しさを再認識させられました。

それについても、世界規模のコロナの中で、3年間「十六夜会」を守り、今回の懇親会開催にまで漕ぎつけていただいた幹事さん(加賀見さん、寺村(井口)さん)と、事前準備、当日の運営に協力いただいた皆さんに心から感謝します。

附属桃山中学に入学したのは1951年、それ以降、皆さんのお付き合いは72年に及びます。今、80歳半になって、来し方を振り返ると、曲がりくねった道が長く続いていて、ところどころに足を踏み外した跡が残っています。その中で、遥か遠くに光り輝いて見えるのは、あの桃山の高台で過ごした多感な中学時代の3年間です。席上で加賀見さんから指名があって、野崎さん、梶原さん、田中(山田)さんが語ってくれた当時の思い出話を聞いて、

その感を強くしました。「十六夜会」が終わりを迎えた後、「お互いの交流・意思疎通の場をどう確保するが」という問題が残りましたが、(故)寒川さんが構築してくれた貴重な遺産であるネットワークを活用しない手はありません。11年前、佐藤さんがメンバーである「フォー・バイ・フォー」東京公演の様子を皆さんにレポートしたのを第1号として、手探りで続けて来た私のブログも1672号に達しました。その動機は、「十六夜会が閉会した後、このネットワークが相応の機能を発揮するに違いない。それまで持ち堪えられれば・・・」

※6期評議員の上田英一様より中学校に届いた郵便物から転載いたしました。生憎当日の集合写真が手に入りませんでしたので、6期の卒業アルバムから2点画像を掲載させて頂きました。

副会長 竹中

第7期(昭和30年卒) 「みしな会」開催
(2023年4月6日)



昭和30年卒業生の同窓会「みしな会」は令和5年(2023年4月6日)京都宝ヶ池プリンスホテルで11時30分から開催。22名が参加。申し込み

24名だったが東京の一人は体調不良、もう一人は会員の付き添いだったが本人元気で不要となったもの。男11名、女11名だった。京都地下鉄の終点、近傍同志社高(岩倉)があり、この開催を喜ぶ者もいた。当時附属に高校はなく、同志社高(岩倉)へ進学する者もいたのだ。家から2時間近くかかったとか。コロナでこれまで4人マスク隔離版などで窮屈だったが、7、8名続きのテーブルで配置隔離版もなく、久しぶりにゆくり話せた。もちろん座席はくじ引き、男女まだらになるよう設定されている。筆者左はアサーのキヤスターに似ている伊佐さん、斜め前が毎回必ず出席の中谷君、前は運動の上手かった松本武ちゃん、右が同じ町内だったマーちゃん真左子さん、斜め前が足の速かった赤田君で設定だった。途中中庭で写真撮影があり済んでからティータイム15時頃まで雑談、スピーチなど楽しい一日だった。

当日死にかけていた2名が参加。一人は肝臓を悪くして、もうアカンと言われたが幸い悪性ではなく2/3切り取っただけで助かり、眼を悪くして欠席しようかという大峽さんを連れて参加してくれた。一人一人いい所がある。みんな同時に並んで一等賞で最近のやり方はおかしい」と言う。流石主事さんの息子。同感。もう一人は、脳血栓があり一寸調子の悪くなって訪れた病院が救急車を呼んでくれ、緊急手術で助かった。付き添いなしで河内の奥から参加。術後の今でも魚釣り、ダンス、卓球、バドウォッチングなどで元氣一杯。「手術ならできるだけやっつけて貰え」という。でも腰椎ヘルニアで歩けなくなった私「手術は」と聞いたら、医者に「年取っていいダメダ」と言われたと私が混ぜ返した。

足の速かった赤田君は観月橋付近の家から学校まで毎日歩いてきた。それが足の丈夫だった原因だったという。ちなみに長距離では3年間常に1位だったとか。そういえば中学時分、短距離走の場合、生年月日順にグループ、5/16が赤田、5/17米井(故人) 彼も運動神経あつ

た、5/18が僕、もう一人前後に誰かいて 入賞は出来なかったのをよく覚えている。

幼稚園で一番背の高かった溝淵君、年取ってやはり数センチ背が低くなったと言う。2番目だった私もそうなので安心した。小学校では大西君が一番高かった。

前の武ちゃん 確かスキーを長くやっていたのでスキーの話。以前幹事やっていたISさん、今忙しいと言う、夫君が入院していて、退院したら、ホームに入って貰うと言う。人もそう言っていると彼女。六麓荘に昔いたSさん、男の子3人後をどうするか、やはり苦労があるらしい。隣の伊佐さん(旧家で後継ぐため戻った)車で来たと言う。中谷君と盛んに免許の話、認知症診断の話更新の際の試験問題出てないと言、以前は出ていた、覚えたものだった。出席しない人の話も出た。M君、よういじめられていたから。イジメッコでもあったが結構人気のあるK君はなんと欠席ばかりなんやろ。イジメッコだったA君反応がないな。

出席率のよい「おっちゃん」、私の行きつけの医院で偶然出会った。昔彼は直ぐ近傍に住んでいて、今も月1行っていると言う。足が痛い歩、歩けと言われているとか、私の場合歩行無理すると言われている。人によってちやうのやな!

誰かが! 小学校卒業の写真を持って来ていた。流石に誰か判りにくけから聞くと、こことやと明示してくれる奴がいた。流石だ!

私はつい2、3日前に附属小学校から来た「小学校同窓会の通知を公開」皆様来て頂たくように勧めた。15時頃解散。ここは市内の一番北桜の花がまだ一杯残っていた。来た道を見て帰った。帰宅16時7分。色々話できて非常に楽しい会合であった。しかし猛烈に疲れて帰宅後何もできなかった。

留岡 寛記

第3期(昭和26年卒) 「つくも会」開催

(令和4年11月11日)



昭和26年3月、京都教育大学附属桃山中学校を99人が卒業し、当時の寺本愨先生は同期会を「つくも会」と名付けられた。この73年の間43名が逝去。

令和4年11月11日に京都伏見の料亭「清和荘」にて最後の同窓会を開催したところ、なんと驚くことか25名(男性11名、女性14名)もの同期生が「最後の晩餐」ならぬ「最後の午餐」に参集した。お世話役の小嶋康博さんと城博之君の両君に感謝。

松原 一郎

第17期 幼稚園・小学校・中学校合同同期会 (令和4年11月5日開催)

令和4年11月5日に 第17期(昭和39年度卒)の附属桃山幼稚園・小学校・中学校合同の同期会をホテルグランヴィア京都で開催しました。コロナの影響も懸念されましたが、3年ぶりに藤林先生と生徒31名が集まりました。感染対策によるスクリーン越しの会話は話し難さもありませんでしたが、こ



の年代の三題「介護」「病氣」「孫」に花が咲き、当時のアルバムを見ている間に半世紀以上タイムスリップした気分でした。

当日は久しぶりの再会に旧交を温め、次回(2年後の予定)の集いを楽しみに散会しました。

中川 (17期)

第20期 サッカー部OB会 (令和4年10月28日開催)



令和4年10月28日、第20期サッカー部OBが小幡真一郎キャプテンの呼びかけで当時指導をいただいた種村裕信先生をお招きして、桃山のレストランで同期会を開催しました。平成11年に種村先生の退官時にサッカー部でお世話になったOB全期が集まって以来の再会となりました。我々第20期は9人、残念ながら副キャプテンだった山田耕司君が既に亡くなり8名となりましたが、今回そのうち6人が東京・大阪・京都から集まりました。我々は中学を卒業しては55年、今年度古希を迎えつつあります。中学時代のように身体は動かなくなり、髪も薄くなりましたが、皆キャラは昔のままでした。種村先生は附属中学の6期生で、我々よりも14歳年上ですが、まだまだお元氣です。

当時種村先生はまだ20代後半と若く、指導にも油が乗っている頃でした。当時はなんとか生徒たちを勝たせてやりたいと思っていたと語られました。1年先輩の19期生の時代に夏の近畿大会優勝という輝かしい成績を取られました。我々も夏の近畿大会まで駒を進めました。1回戦で滋賀県江南中学にまさかまさかの逆転負けで終止符を打ちました。我々の時代は常に優勝を争った蜂ヶ丘中学(釜本氏の母校)を始め、洛北中学・陶化中学・桃陵中学などがライバルで、当時の思い出話に花が咲きました。練習中は水を飲むなどいう今では考えられないような非常識な時代でしたが、何も事故が起きず幸いでした。小幡君はその後Jリーグの審判員として活躍し、現在も若手審判員の指導に当たっているのは我々の誇りです。又三栗茂裕君は44歳まで市民リーグやフットサルでプレーを続けられたと聞いて皆吃驚しました。種村先生にも再会を喜んでいただき、少しは恩返しが出来たかと我々も喜んでます。皆元氣で又の再会が出来るとを祈っています。

尚、写真は左から、水内、灰崎、種村先生、小川、三栗、野田、小幡です(敬称略)

野田 (20期)

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

第16回 つゆ草の集い

2022年6月12日(日)
ホテルグランヴィア京都にて開催

新型コロナウイルス感染拡大のため、1年延期となっていました、「第16回つゆ草の集い」(京都教育大学附属桃山中学校同窓会総会)は、令和4年6月12日(日)午後0時より、ホテルグランヴィア京都において、母校の佐々木稔前副校長先生や、秋山雅文現副校長先生、藤林修一先生、杉山勉先生、三間英孝先生、神崎友子先生をお迎えし、総勢139名の方々の出席を得て開催されました。

ロビーにて全員記念写真を撮影した後、会場に移り、総会の開会です。

総会では、竹中徹男副会長(31期)の司会のもと、水谷孝子会長(16期)による「天上のあなたへ」の放映と挨拶、田村直樹副会長(22期)の活動報告、中川陽之助理事(17期)の会計報告、竹村一志監事(14期)の監査報告が行われ、承認されました。

引き続き、田村直樹副会長と田中真須美理事(22期)の司会のもと、竹中徹男副会長の開会挨拶をもって、懇親会を開会しました。来賓のご紹介に続いて、出席者の皆さまを10期毎にお呼びして、拍手で再会を喜び合いました。そして、出席者の最年長期の新庄宏さん(2期)と、最年少期の上田夢果さん(74期)のお二人の、明るい声と笑顔に合わせて、全員で乾杯をしました。

コロナ禍の感染対策も十分配慮された各テーブルでは、飛沫防止パーティション越しではありますが、コース料理と和やかな会話が弾む会食の時間を持ちました。

開会から約1時間後、AIさんの「アルデバラン」のBGMを合図に、74期の上田夢果さん、川口陽大さん、芝本沙與さん、橋本理央さん、平野美穂さんと、松田凌理事(65期)、水谷孝子会長の案内で、「Hello Everybody」が始まりました。

たくさんの方からいただいたメッセージの中から選ばれた動画、スライド、メッセージを紹介していきました。齋藤奈都美理事(56期)からのピアノ曲から始まり、「コロナ禍の中、早速に同期会をしましたよ」と留岡寛さん(7期)、「私達の同期会の歩み」を語ってくださった笹川町子さん(11期)、「離れていても繋がり合えるよ。僕たちの十六夜会」を紹介してくださった上田英一さん(6期)、そしてもっと遠くのカナダからは、尾関雄二さん(18期)の動画メッセージが紹介されました。大学、大学院、海外留学などで「懸命に学んでいます」の多くのメッセージと、「チェコ・プラハでバレエを学んでいます」の荒木力さん(71期)からのスライドメッセージ。コロナ禍の中、奮闘してくださっている、教職・医療を始めとして、「懸命に仕事に取り組んでいます」のメッセージの数々と共に、母校で、育友会長として頑張っている小林哲也さん(42期)のスライドメッセージ、そして、秋山雅文副校長先生からの、「母校の現状と未来について」のスライドとお話が紹介されました。そして、最後に、山田晏子さん(10期)の「コロナ禍での音楽活動」と題した動画メッセージ。音楽を通して得た、たくさんのお会いへの感謝を込めて、美しい合唱の響きを届けてくださいました。その歌声を聴きながら、デザートタイムへと移っていきました。

最後に、現理事・評議員の皆さんが壇上に上がり、感謝のご挨拶、竹中徹男副会長の閉会挨拶へと進み、校歌のDVDをスクリーンに映す中、散会となりました。

次回こそ、みんなで声高らかに校歌を歌えますように、と願います。

こうした感染対策をしながらの「つゆ草の集い」ではありましたが、先生方を始め、多くの方のご出席を得、また、温かいメッセージの数々に、たくさんの方の元気と励ましをいただきました。まことに、ありがとうございました。

皆様のご健勝を、役員一同、心より、お祈り申し上げます。

水谷孝子前会長記

源氏 東南
Genji京都教育大学附属
桃山中学校

つゆ草の集い会場





ホームページのご案内

今回のつゆ草第20号につきまして、これまで通り紙面発行と送付を行うことで、同窓生の皆様へご案内をしております。

次回第21号からは、紙面発行からWeb配信に移行する段階的な取り組みで皆様にご案内していく方向で、当同窓会において検討しております。コミュニケーション手段の多様化、ライフスタイルの変化、郵便料金の高騰などが背景にあります。一方でWeb配信を推進することで、迅速な情報伝達、情報交換を可能とし、今後の同窓生のつながり、学校との連携活動にも発展していくことができると存じます。

ホームページでは本紙のご案内情報のみならず、掲示板も有しております。同窓生同士の情報交換や、ご自身の紹介や活動告知などにもお使いいただけますので、この機会にぜひご覧いただけますと幸いです。

(45期 桐村 慶二)



【同窓会役員】令和6年4月1日現在

- | | | |
|-----|-----------|------------|
| 会長 | 22期 田村 直樹 | 31期 竹中 徹男 |
| 副会長 | 8期 田中 真須美 | 13期 安岡 俊爾 |
| 理事 | 13期 伊吹 恵子 | 17期 中川 陽之助 |
| | 29期 田中 曜次 | 32期 小川 裕直 |
| | 37期 奥山 智緒 | 45期 桐村 慶二 |
| | 51期 山口 真希 | 56期 齋藤 奈都美 |
| | 56期 佐原 浩和 | 65期 松田 一志 |
| | 12期 家村 浩和 | 13期 竹村 凌 |

【編集後記】

この度2023年4月以来の会報誌「つゆ草」を発刊いたしました。3年以上にわたるコロナ禍も落ち着き、皆さま方にとっては「不自由のない日常を取り戻した」と感じられるかと存じます。

今回の紙面においては、附属桃山中学校の卒業生ならではの面白い話題をご提供していただくべく、「生き方」や「取り組んでいること」にフォーカスし、寄稿を募りました。7名の方が執筆してください。ご自身のエピソードを語ってください。

同期会についても活発に開催されました。幼稚園・小学校・中学校合同の同期会やクラブのOB会も含めて様々な形があります。中学時代という多感な時を一緒に過ごせたという素晴らしい思い出を楽しまれているようです。

また、お手元に届いた紙面を読んでいただくとお分りいただけるかと存じます。2年前とは変わったことや工夫を凝らしたこといくつかございます。

一つ目は、我々の母校が本年4月の入学生から、京都教育大学附属高校との併設型中高・貴校に変わるということ。同窓会もそれに対応して変わって行かなければなりません。

二つ目は、中学校との連携事業としての文化祭への参加は既に4年の歴史がありますが、新たに「生き方探求」学習への協力を始めたいです。このように、同窓会としての活動範囲も少しずつ広げて行っております。

三つ目は、ホームページ等に、QRコードから簡単にアクセスできるようにしたこと。今年の「つゆ草の集い」にご出席いただける恩師の名前を、今後ホームページ等に掲載する予定もありますので、時にはホームページも眺めていただけますと幸いです。

2年ぶりの開催となります「第17回つゆ草の集い」に参加していただきました。上記のような変化をより実感できるだけでなく、恩師や多くの同窓生と再会して、交流を深めることができたと存じます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

同窓生の皆さまには、本紙やホームページを通じて今後も母校や同窓会の活動状況について新たな情報をお知らせしてまいります。少しでも多くの方にご覧いただき、母校を懐かしく感じていただけたことができれば幸いです。

最後になりましたが、本紙に寄稿をいただいた同窓生の皆さまと中学校の秋山副校長先生、および本紙の発刊にご協力をいただいた関係者の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

本紙編集担当 8期 伊吹興一郎 45期 桐村慶二